

ユーストマ (トルコギキョウ)

かつては夏を代表する切花の一つであったが、現在では品種や栽培技術の改良により四季を通じて生産されている。日本では特に品種改良が盛んで、一重・八重、小輪～大輪、単色・覆輪、フリンジなど様々な色と組み合わせが存在する。もともと高温期にロゼットする性質を持つため、四季のある日本での周年栽培は難易度が高い。



学名 *Eustoma* リンドウ科
和名 トルコ桔梗 (由来は諸説あるが、そもそも桔梗ではなく国名のトルコとも関連はなさそう)
原産地 アメリカ北中部

特性・・・温度に対する反応は敏感
開花特性・・・相対的長日 (限界日長 8 時間) + 高温で促進
開花期・・・季咲きで 7 月～8 月
栽培環境・・・生育適温は夜温 15℃、昼温 25℃ 日当たりが良く、過湿乾燥が偏らない土壌

1 坪あたりの植付け本数・・・約 110～140 本/坪
1 株あたりの採花本数・・・仕立てにより 1～2 本
価格・・・品種により異なるためカタログ参照

播種

播種時期・・・11 月下旬～12 月下旬
発芽条件・・・好光性
発芽適温・・・20～25℃
発芽日数・・・約 日

定植

定植時期・・・2 月～4 月下旬
定植間隔・・・株間条間 12cm の 6～8 条植え
畝・・・90cm 程度 定植状況に準じる
ネット・・・定植間隔により 12cm 角を 1～2 段
マルチ・・・地温確保、雑草防止、生育後半の水切りなど、用途により使い分ける

肥料

元肥・・・N-P-K=各 1.0～1.5kg/a
例) N-P-K=1.2-1.0-1.5kg/a
pH・・・6.0～6.5
追肥・・・N-P-K=0.8-0.8-0.8kg/a

作型

◆7～8 月出荷・・・中～中晩生品種推奨
11/上～12/下播種、2/中～4/上定植
無加温
◆8/中～10 月出荷・・・中晩～晩生品種推奨
3～4/中播種、5/上～6/下定植
定植後 30 日間シェード 冷蔵苗推奨

◆11~12月出荷・・早生~中生品種推奨

5/下~6/中播種、8/中~下定植
定植後約1週間遮光 冷蔵苗推奨

◆2~4月出荷・・極早生~早生品種推奨

7/下~8/中播種、10/上~11/中定植
15℃加温 電照

◆4~5月出荷・・極早生~早生品種推奨

8/下~9/上播種、11/中定植
10℃加温 2/上~4/上は15℃加温

◆5~6月出荷・・早生~中生品種推奨

9/中~11/上播種、12/中~2/上定植
15℃加温

病虫害

モザイク病

壊疽モザイク病

壊疽病

青枯病

萎凋細菌病

葉枯細菌病

根腐病

疫病

灰色かび病

菌核病

斑点病

炭そ病

立枯病

茎腐病

苗立枯病

青かび病

うどんこ病

べと病

ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、カブラヤガ

ミカンキイロアザミウマ

ナモグリバエ

ナミハダニ

センチュウ類

出荷

朝夕の涼しい時間帯に採花。全小花のうち、3~4割が開花した時点を切り前とする。

蕾3割、開花直前の蕾3割、開花4割

管理

生育適温は昼温25℃前後、夜温15℃前後
生育限界は7~8℃ 0℃以下では障害発生
幼植物体では35℃以上で生育が停止し、ロゼット化の要因となる

ロゼット化の条件は、平均気温25℃以上、昼温35℃以上、夜温20℃以上の高温が主である
他には、断根、極端な乾燥、強光、短日などがロゼット化を助長するとされる

種子は好光性なので、覆土は行わないか極薄く行う。

ペレット加工種子の場合、たっぷりと灌水してペレットを崩すように心掛ける。

(半端に水分を吸収した後に再度乾燥すると、ペレットが固く締まり発芽できなくなるため)
その際、頭上灌水では種子が小さく流れ出しやすいので、底面吸水やミスト灌水を併用する。

播種用土は排水、保水共に偏らず、pH6.5程度に調整されたものを用意する

肥料が多いと濃度障害を起こしやすいので、無肥料か極低濃度に抑える

開花特性は相対的長日植物で、長日+高温の条件下で最も早く花芽分化する。

そのため、高温長日で開花促成、逆に低温短日で開花抑制が可能となる。

花芽分化の好適日長は16時間

限界日長は8時間

電照およびシェード栽培の基準となる

追肥は、定植後から1週間間隔で3回程度与え、活着と株太りを促す

その後は1ヶ月に1回程度、生育の具合を見ながら与える

切花品質の向上のため、下位の脇芽は早めにかき取り、頂花から下4~5本の枝が残るように調整する

ただし、湿度の高い状態でかき取ると、傷口から灰色カビ病などが感染する可能性もあるため、晴れの日を選んで行う事

3年以上の連作は連作障害が発生しやすくなる
作場の変更や土壌消毒など、対策が必要